

2019 年度AO選抜 国際関係学部
「ジョイント・ディグリー・プログラム総合評価方式」

【選考講評】

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
アメリカン大学・立命館大学国際連携学科	7	3	3

2. 試験内容

(1) 第一次選考

英語試験のスコア、成績証明書、志望理由を含む以下の3つのエッセイを総合的に評価しました。

- ① Reasons why you want to study in American University-Ritsumeikan University Joint Degree program. (300words)
- ② Write about a past experience that you are proud of and how you intend to apply this experience in American University-Ritsumeikan University Joint Degree program. (300 words)
- ③ Select an issue which Asia-Pacific region is currently facing, describe its background and trials/efforts to solve it, and state your own opinion about future perspective on the issue. (600 words)

(2) 第二次選考

英語による面接を行いました。

3. 出題の意図

(1) 第一次選考

上記で示した3つのエッセイの意図は以下の通りです。

①は、受験生が本学科のジョイント・ディグリー・プログラムで学習意欲を持ち、アメリカン大学＝立命館大学国際連携学科の育成目標やカリキュラムを理解して出願しているかどうかを判断することが目的です。②は、日米両国を横断して多文化が融合する当プログラムの学びのコミュニティで文化の異なる学生と協働した学びができるかどうか、また多くの課題をこなし、プログラムを修了できる力があるかどうかを判断します。③は、主として受験生が、現代の国際社会、とくにアジア・太平洋地域が直面する課題についての知的関心を有しているかどうか、必要な知識を有しているかどうか、そして国際問題に取り組む基礎学力、論理力、および英語での文章作成能力を有しているかどうかを判断することが目的です。

(2) 第二次選考

面接選考では、英語による面接を通して、受験生が、①英語による専門科目を履修することによって国際関係学の高度な知識を習得するとともに、立命館大学とアメリカン大学で専門の学びを深めていくために十分な英語運用能力（とくにスピーキング能力やリスニング能力）があるかどうかを中心に選考します。また、②提出されたエッセイの内容について、自分の言葉で論理的に説明、議論する基礎学力があるかどうか、③国際社会の現代的諸問題について、様々な文化的背景を持つ学生と共に学び、複眼的に捉える力を養い、自らを高めたいという強い意欲があるかどうか、を確かめることを目的としています。

4. 評価のポイント

(1) 第一次選考

書類選考では、提出された出願書類（英語外部資格試験のスコア、成績証明書、エッセイ）をもとに選考しました。受験生が当プログラムの学びに必要なとされている基礎学力と英語力を有しているかどうかを、英語外部資格試験や成績証明書にもとづいて評価しました。また、提出されたエッセイの内容をもとに、国際関係、とくにアジア太平洋の課題に対する、受験生の関心、知識、議論を組み立てる力、問題解決志向について評価しました。エッセイ①については、志望動機が明確にそして具体的に書かれているかがポイントです。②については、受験生が取り上げた経験が当プログラムの学びにうまく関連づけて書かれているかが重要です。③については、国際社会、特にアジア・太平洋地域の現代的諸問題についてどのように理解しているか、深く理解し複眼的に捉えているか、あるいは捉えようとしているか、またそうした問題を解決しようとする思考力が備わっているか、そして英語で論理的に文章を構成し意見を表現する力があるかどうかを中心に評価しました。

(2) 第二次選考

面接では、新たにスタートする当プログラムへの志望動機が明確であり、学習意欲が強いかどうか、立命館大学とアメリカン大学での学習において英語による専門科目の履修を行うのに十分な英語運用能力があるかを審査しました。とくに、質問を正確に理解し、自分の意見を的確に述べる力があるかどうか、大学での学びを支える基礎学力があるか、さらには国際社会のなかで将来活躍できるような適応能力が認められるかといったポイントを中心に評価しました。

5. 解答状況

(1) 第一次選考

提出された英語外部資格試験のスコアには幅があり、スコアやエッセイの内容からアメリカン大学とのジョイント・ディグリー・プログラムでの学びに必要な英語力を有しているとは見なすことが難しいケースもありました。また、成績証明書から中学3年次および高校3年間の成績から十分な基礎学力を持っているとは見なされないケースもありました。エッセイの内容については、自身

の経験を国際社会の課題に結びつけて議論できているものが多く、自分の考えや意見をリサーチにもとづいた多角的な視点から論述されたものが高く評価されました。

(2) 第二次選考

受験生のほとんどが海外での滞在経験（留学を含む）があり、多様な文化的背景を持つ学生と共に学ぶことに意義を見出し、アメリカと日本の両国でさまざまな国からの留学生と切磋琢磨する機会を求めている点が特徴的でした。ジョイント・ディグリー・プログラムの特徴やねらいを理解し、留学経験を含むこれまでの経験にもとづいた問題関心と将来の目標・ビジョンについて、英語で説明することができました。

6. 次年度受験生へのアドバイス

成績証明書については中学 3 年から高校 3 年までの（数学や理科系科目も含む）全教科について丁寧に審査します。したがって英語科目だけでなく、中学・高校での日頃の学習を大切に、基礎学力を養ってください。TOEFL iBT® や IELTS をはじめとする英語外部資格試験スコアも重要な判断材料となります。早い段階でこれらの試験の準備を始め、余裕をもって受験しておくことをおすすめします。

また、新聞やテレビ、インターネットで取り上げられているニュースや国際問題に眼を向け、その問題について疑問を投げかけ、自分の頭で考える習慣をつけましょう。最近は多くの国のニュースが英語で発信されており、インターネットやスマートフォンで読むことができます。とくに興味のある問題については、日本のメディアから発信される情報だけでなく、該当する国のメディアや関係諸国ではどのように伝えられているかを知ることが重要です。そうすることによって問題を多角的に捉える力が備わります。

また、卒業後の自分自身がこうありたいという将来像を描いてみましょう。そうすれば、自分が立命館大学およびアメリカン大学の連携によるジョイント・ディグリー・プログラムでどんな学びをするべきか、当プログラムでの学びが、自らの人生にとってどのような役割を果たすかが明確になるでしょう。

以上